

●4月の上映作品について

バックナンバーはHPまで

「きらめく拍手の音」

4月6〜7日@喫茶メフィストフェレス2Fシアター

4月1本目の上映作品は、ろう者のご両親の日常を健聴者の娘さんが撮影・監督したドキュメンタリー映画「きらめく拍手の音」。監督のイギリス・ボラさんは、2年前の作品公開時に来日されて、たくさんインタビューを受けています。その中から印象に残った反抗期についての談話をご紹介します。作品の味わいもまた深まると思いますので、ぜひお読みください。

「中学生の頃、好きな男の子がいて。ある日、塾の帰りに一緒に歩いてみると、道端で母にバッタリ会ったんです。母は手話で「もう遅いから一緒に帰ろう」と。親が聴覚障害者だと彼には話していませんでしたので、私はとても慌てて、「早く帰って!」と邪険に言ってしまったんです。母は察して、先に帰りました。それから……家に帰ると、母が私にずっと背中を向けているんです。

手話の世界は、相手を見てコミュニケーションが成立します。話したくない時は顔を背ける。背中を向けるのは絶対の無視です。母はそれだけ怒っていました。

私はなんとか母に弁解したいと思いました。申し訳ない気持ちで一杯だったし、同時に、親の障害を周りの人に説明する役目を子ども頃からずっと担ってきた、その辛さも知ってほしかった。でも母は、私が肩を叩いても頑なに洗い物を続けるんです。ようやく振り向いてくれたと思ったら、烈しく「私の存在を否定するような娘には、家においてほしくない。出て行って」……私は悔しくて悲しくて、大泣きました。そんな状況になってしまった責任が、私にも母にもないことはよく分かっていたからなおさら。

それからの私は、「自分がろう者なのをお母さんが恥ずかしいと思っていないんだから、私もお母さんを恥ずかしいと思うのをやめよう」と決めました。母には「だん固らしいところがあるんですけど、

むしろそこを見習おうと。

些細な一夜の母子喧嘩でしたが、私にとっては大きなターニングポイントとなった出来事です。ちなみに、その男の子とは結局うまくいきませんでしたけど(笑)。

イギリス・ボラ監督作品「きらめく拍手の音」。お楽しみください。

「バジユランギおじさんと小さな迷子」

4月15日〜21日@喫茶メフィストフェレス2Fシアター

ゴトゴトシネマ初の1週間上映となる「バジユランギおじさんと、小さな迷子」。この作品を知ったのは、昨年11月くらいだと思います。インド映画と言えは20年以上前にみた「ムトゥ踊るマハラジャ」。あんな感じの泣いて笑って、波乱万丈、勲善懲悪、抱腹絶倒なマサラムービーをぜひ一度やってみたいな〜と思っていた頃でした。まず、主演のサルマン・カーンと可愛い迷子役のハルシャリー・マルホトラーちゃんの、スカットと笑顔のメインビジュアルに心奪われましたね。

配給は在日インド人の方がやられているらしく、英語があまり達者ではないので、どうしようかなと思っていたところ、中を取り持っていた方が現れ、視聴して無事上映できることになりました。

内容はもう、ゴトゴトもフェイスブックやラジオやなにやらからやらで発信しまくっておりますが、2時間40分たつ



スカットと笑顔のメインビジュアル。

ぷりと楽しめる感動&号泣作。これからご参加という方は、ぜひ大き目のバスタオルをご用意いただければと思います。ご用意せずに当日を迎えてしまったあなた。しょうがない、我を忘れて泣きましょう。ストレス発散スカットとい気分でお帰りになれる傑作です。身をゆだねて、いざ!

gotogoto cinema

上映詳細はチラシ、HP、FBにて

●ゴトシネマヒストリー vol.10
ノリに乗っていろんな映画を上映。



「バンド・ワゴン」名作ですよ!

声を漏らしまくっております。

その次も思い出深い作品、フレッド・アステア主演の「バンド・ワゴン」。これは、そのちょっと前に県立美術館で行われた上映会で知って、「こんな映画があるのか」と感動した一作。たしかニューヨーク近代美術館(MOMA)の所蔵フィルムが公開されたか何かでの関連上映でした。その時はジーン・セバグの「悲しみよこんにちは」目当てで行ったのですが、こっちがあまりにもすばらしく、紹介したくなって上映しました。桑尾公民館シネマのお客さんも相当楽しめました。こういう楽しい作品は、これからもどんどん行って行きたいと思えます。皆さん良いのを知ったら、じゃんじゃん教えてください。

あ、そうそう予断ですが、確かこのMOMAの関連でアンディ・ウォーホルが監督した「ヴェルヴェット・アンダーグラウンド・アンド・ニコ」のアバンギャルドな映像も上映されました。これがあなた、1時間ぐらい永遠と、演奏するヴェルヴェットを写しつつも、カメラを右に左にパンしたり、ぼけぼけにぼかしたり、突然ガチョーンとみたくない感じでズームしたり…の連続攻撃・波状攻撃。苦行のような上映会でした。年配の方も含めて50人以上はお客さんがいたと思いますが帰る人もいなくて、Uターンしたばかりの私は、「高知のお客さんはすごいな〜」と相当感心しました。よ。(つづく)ゴトゴトブログより転載

前回、ゴトゴトシネマ発祥の

地・土佐山桑尾公民館上映の4回目「大草原の少女みゆきちゃん」まで書きましたね。半年く

らい日がたっておりますので、

確認しつつゴトゴトと綴って行

きたいと思えます。で、5回目は、

初韓国映画「牛の鈴音」。ドキュ

メンタリーなのですが、その内

容といい、三脚を使つて見事に

捕らえられた映像の美しさとい

い、文句なしの感動作でしたね

。ご参加のお客さんも感嘆の